

丸ノ口古墳群 (Ⅴ群 5 号墳及びⅥ群 2 号墳)

【平成 11 年 6 月 22 日 市指定 史跡】

那珂川北中学校を建設する際に、42 基の古墳を発掘調査しています。そのうち、Ⅴ群 5 号墳とⅥ群 2 号墳の二基は石室内に装飾を施した「装飾古墳」であることがわかりました。丸ノ口古墳群の装飾は「敲打技法」という非常にめずらしい技法が用いられています。県内の発掘調査によって発見されたのは初めての事例でした。二つの装飾古墳は本市の古墳時代を考える上で貴重な古墳として指定され、古墳公園として現地保存されています。



◀ 丸ノ口古墳群

(手前：Ⅴ群 5 号墳、奥：Ⅵ群 2 号墳)

丸ノ口古墳群では円墳と小石室が見つかっていて、古墳がつくられた時期は古墳時代後期の 6 世紀ごろと考えられています。



▲ 石室奥壁の装飾 (Ⅴ群 5 号墳)

※「敲打技法」とは、石の表面を細かく叩いて文様を描く装飾技法です。円文は太陽や鏡を表すと考えられます。

▲ 石室奥壁の装飾 (Ⅵ群 2 号墳)

Ⅵ群 2 号墳では、円文の他に舟形文や三角文（波のような折れ線）など、めずらしい文様が施されています。